

天使になつた猫



キヨキ

天使になった猫チヨキ



イラストレーターの夫婦の家に子ネコが届き、
夫婦は「チヨキ」と名付けました。
チヨキのいる生活はとても幸せで、
微笑みの日々はなんと22年も続いたのです。

原作原案：くろけん&maoi

ストーリー：くろけん

セリフ：maoi

絵：くろけん

かわいいネコのチョコキは22才。



ネコの22才は人間でいえば104才のおばあちゃんだけど、
とてもみんなに愛されていました。
緑内障という病気のせいで目は見えなくなっちゃったけど、
「ぜ～んぜん気にしないにゃ。」

エメラルドのような瞳はキラキラかがやいて、
お鼻をクンクン、お耳をピクピク、おヒゲをビリビリはたらかせて、
お花畑をおさんぽです。

風の音、お花のかおり、ちょうちょのはばたき、
みんなチョコキのお友達です。



チョコキはとっても甘えんぼう。
パパとママに毎日なでなで、ゴロゴロ、
スリスリスリスリ、幸せいっぱいです。

パパとママはチョコキが好き、チョコキもパパとママが大好き。

スリスリ、ゴロゴロ。

幸せな日々は、このまま永遠につづくように思われました。

ある日チョコキは死にました。



22才まで生きて、安らかに眠るように旅立ちました。

長いあいだ一生懸命生きて、
たくさんの人に幸せをあげたチョコキは、
パパとママに見守られながら死にました。

「チヨキが死んじゃった～」

パパとママは泣きました。

びっくりするほど泣きました。

いつまでもいつまでも泣きました。



やがて死んだチヨキの体から魂がスルリとぬけて、

フワフワと動きまわります。

病気のいたみも無くなって。

急に体が軽くなったチヨキは、

ウーンとのびをしてパパとママを見あげました。

「パパ、ママどうしたにゃ？」

「チョキはここにいるにゃよ。」

「どうして泣いてるにゃ？」



チョキはまだ自分が死んだということがわかりません。

チョキは遊んでほしくて、パパとママにスリスリ甘えて
たくさんアピールしてみましたが、
パパとママはまったく気づかずに泣いてばかりです。

チョキはだんだんさびしくなって、
小さな声で「パパー、ママー」と泣きました。

「クスクス」「クスクス」どこからか笑い声がします。

「だれにゃ？」



その声は聞きおぼえのあるやさしい声で、
チョコの心はパッと明るくなりました。
そこにいたのは前に死んだ弟や妹たちだったのです。

「あっ、ゲーくん！」「パーちゃん」「アイコちゃんも！」
3匹は楽しそうに「クスクス」笑いながら
チョコのところまで集まってきました。



ゴロゴロゴロゴロひさしぶり～！
スリスリゴロゴロ会いたかったよ～！
「わあ～い！ みんな元気だったにゃ？」
「また会えてうれしいにゃ～。」

ゴロゴロスリスリ、ゴロゴロスリスリ。

おてんばむすめのパーちゃんは6年前に、
やさしいグーくんと甘えんぼうのアイコちゃんは1年前に死んで、
それからはパパとママとチョコキ3人だけの生活でした。

スリスリゴロゴロうれしいね！

おたがいにお顔をなめあったり、ほっぺをこすりついたり、
うれしそうにジャレ合ったりと、
楽しいごあいさつは長いあいだつづきました。



「じゃあみんな、そろそろいこうか」
とグーくんがいました。
「え？どこへにゃ？」
パーちゃんとアイコちゃんは声をそろえて
「天国う～！」と合唱します。
「天国って？」とチョコキが聞きますが、
みんな「いこういこう」とせかします。

「でもパパとママが・・・」
「だいじょうぶ、きっとまた会えるから」
とグーくんがやさしくいきました。

わあ



みんなにせかされて立ちあがろうとしたチョコキは、
フワッとからだが浮くことに気がつきました。

「ワーイ、うれしいな。みんなで天国だ！」

パーちゃんは大よろこび、
チョコキもなんだかウキウキと楽しい気分になってきました。

「しゅっぱ〜っ！！」

わーい！



ゲー、チョキ、パー、アイコは
グングングン浮かびあがり、
町の上をとび、山をこえて
ドンドンドンのぼってゆきました。

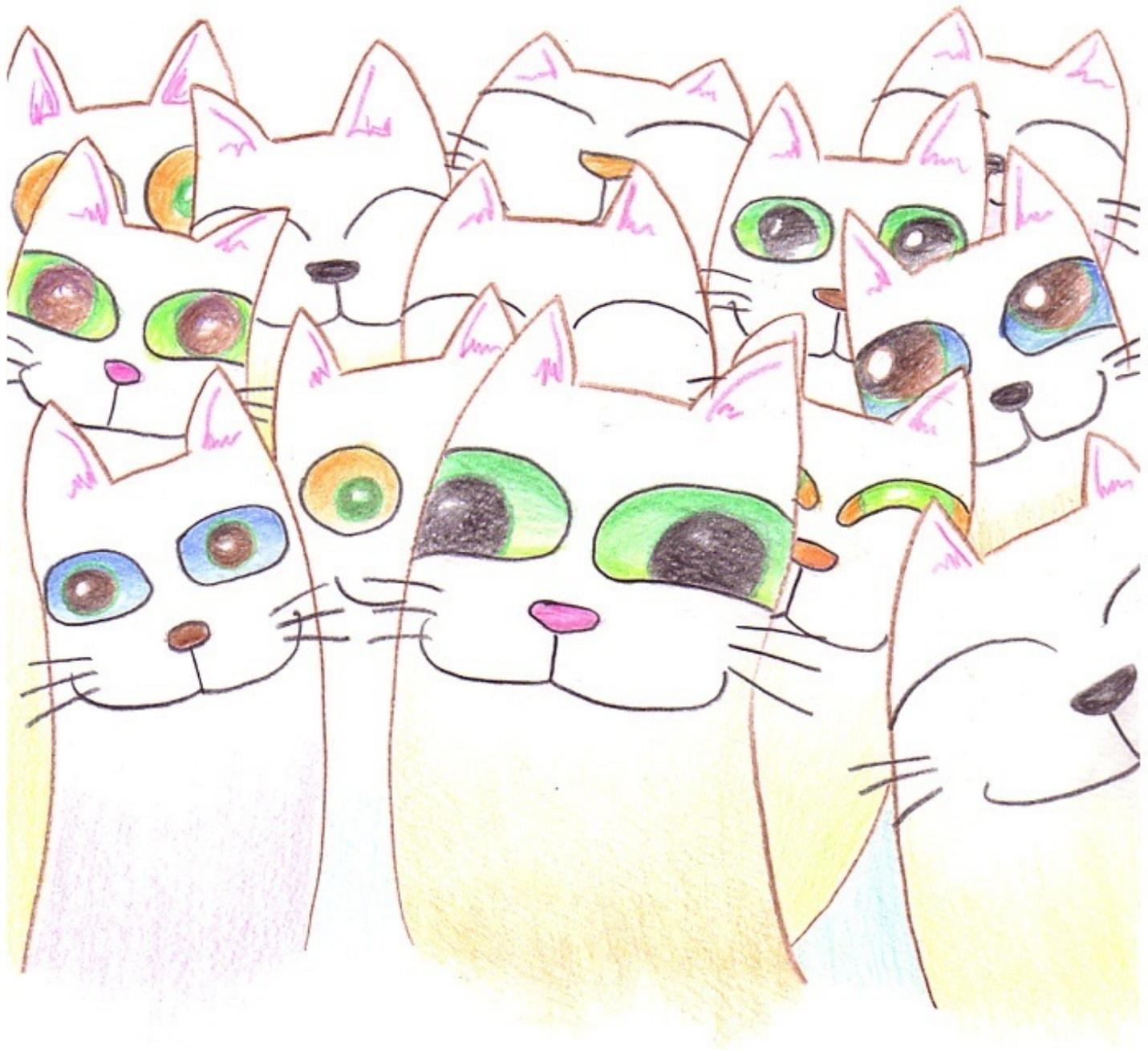
イエー！

みんななんだか楽しくなって、
笑いながら高い高いお空へ飛び去ってゆきました。



高いお空の雲の中をぬけると、
とても明るい場所に出ました。
ふわふわと綿菓子のような雲は気持ちよく、
甘い香りがします。
3匹の兄弟たちは大よろこびではね回り、
それはそれは楽しそう。

爽やかなそよ風が気持ちよく、
チョキが周りを見渡すと、
そこには沢山のネコの神様たちが
ニコニコと出迎えています。
チョキはどこかなつかしい気持ちにつつまれて、
心の底からうれしくなりました。



「あなたがチヨキちゃんね」

「ウワサはきいてるよ」

「よく来たね」

「あなたはエライのねえ」

「うん、よくガンバった」

沢山の言葉がチヨキの心にふりそそぎ、いっぱいに見たされます。
それはとてもあたたかくて優しいものでした。

「ここが天国なのにな？」
「うん、そうだよ！」
「いいところでしょ？」
「すごく楽しいところなんだよ」
チョコキはキョトンとしています。



どこからか軽やかな音楽が聞こえてきます。

「ほら、ねえ、踊ろうよ」

「え？」

「踊るんだよ」

「そう、踊るの～、ここでは」

「ワーイ、踊ろう踊ろう！」

「パーティーだあ！！」

ズンチャ、ズンチャ、ズンチャ、ズンチャ。

楽しい音楽に、みんなの笑い声があふれます。



リズムによってチョコの体も自然にステップをふみはじめ、
それはそれは沢山のネコたちが、楽しそうに笑い踊ります。

ズンチャ、ズンチャ

「ほらね、チョコちゃん」

ズンチャ、ズンチャ

「楽しいでしょ？」

「うん。」



みんなみんな踊ります。
夜空の星も踊ります。
いつまでもいつまでも、
天国のパーティーは夜があけるまでつづきます。

ネコたちはパパとママが泣きやむように
祈りをこめて踊るのです。

やがてゆっくりと夜があけて、
気持ちのよい朝がやってきました。



パーティーは終わって、
静かでおごそかな天国にもどっています。

ネコたちもみんなどこかにいなくなり、
チョコひとりだけが雲の上ののって
フワフワと浮いていました。

「チョコキ。」

まぶしい朝日の中から、チョコキを呼ぶ声が聞こえます。

それは美しいネコの女神様でした。



「今までよくがんばって生きましたね。」

チョコキはその美しさに心をうばわれてしまいました。

「あなたはこれまでに何度も生まれ変わり、
これでちょうど300年です。」

「サンビャクネン??」

「そうです。」

「300年生きたネコは天使になるのです。」

「天使・・・？」

「ほら、もう生えてきましたね。背中をご覧ください。」
チョコキの背中には小さなかわいい羽が生えていました。



「わあ～、スゴイにゃ！」

「カッコイイ～～！！」

チョコキは羽をはばたかせ、スイスイと飛び回りました。

「チョキ。」

「はい。」

「今日からあなたは天使です。」

「……………」

「あなたには大切なお仕事があります。」



チョキがふと気づくと目のまえには、
たくさんの赤ちゃんが袋に入ってならんでいます。

「この子たちをママのところへはこぶのが、あなたの仕事です。」

「はい。」

不思議ですがチョキにはすぐに理解できました。

「さあ、いってらっしゃい。」



これから産まれる子ネコたちは、
とてもかわいい顔をして眠っています。
チョコキは順番をまつ子ネコたちの先頭の袋を
ヒョイトくわえて飛び立ちました。

新米天使のチョコキは、眠っている子ネコを起こさないように
気をつけながら静かに舞い上がりました。
山をこえ、海をわたり、見知らぬ街の上空を飛んで、
チョコキは赤ちゃんをはこびます。



行き先は何故かもうわかっています。
お天気のよい大空を、チョコキはゆっくりフワフワと進みました。

チョコキは長い距離を飛んで、
ある小さな山奥の村に住む老夫婦の家に着きました。



そこにはお腹の大きなおかあさんネコがいるのです。

「あなたはこのお家で産まれるみたいじゃね。」

「ほら、やさしそうなおかあさんにやよ〜。」

赤ちゃんはホッとした顔で

大きなあくびをひとつしました。

やがて子ネコは無事に生まれ、
おかあさんネコの愛情をたっぷりとうけて幸せそうです。



まもなく老夫婦も気づいて、
大喜びでおかあさんネコにごちそうをくれるでしょう。
そんな姿を見てチョコもひと安心です。

チョコキは産まれたばかりの子ネコの地をはなれ、
高く高く飛び立ちました。



チョコキはとても幸せな気持ちになって、
自然に笑いがこみあげてきます。
チョコキは天使になれてよかったと思いました。



チョコキは幸せな気分をかみしめながら
ふとパパとママのことを思い出しました。

「パパとママはどうしてるかにゃ〜？」

「会いたいにゃあ。」

「そうだ、お家に行ってみるにゃ。」

チョコキはすごいスピードで飛んでゆきました。



チヨキはなつかしいお家にもどり、
窓から中をのぞいてみました。
チヨキの記憶はよみがえり、
これまでの楽しかった日々を思い出しました。

「パパ～、ママ～、チヨキ帰って来たにや～。」

チヨキはうれしくてうれしくて、
パパとママに何度も呼びかけました。

でもそこにはまだ、今でも死んだチヨキを想って
泣いているパパとママがいました。

「パパ、ママ、チョコキにゃよ〜。」

「帰って来たにゃよ。」

「元気だったにゃ？」

「ねえ、パパ、ママ。」



でもパパとママには聞こえないようです。
パパとママはいつまでも泣いていました。

「ムダだと思うよ、チョコキちゃん。」

「えっ？」



そこには天国でわかれた
ゲーくん、パーちゃん、アイコちゃんがありました。
「みんなも来てたのにゃ？」
「うん、よく遊びにくるんだよ。」
「でもパパとママったら、ちっとも気づいてくれないの〜。」
「えっ？じゃあチョコキたちが見えないってことなのにな？」
「うん、なんか修行がたりなくてダメらしいんだ〜。」
「そうなのにな。。。」
チョコキはちょっとがっかりしました。

「まあそのうち気づいてくれるかもしれないから、
僕たちはしばらくここに来ようと思ってるんだ。」
でもチョコキはまたお仕事にもどらなければなりません。
「じゃあチョコキはお仕事行くけど、パパとママをよろしくにゃん。」
「ハイ！」
ゲーくん、パーちゃん、アイコちゃんは元気に遊びまわります。



チョコキは少しさびしい気持ちになりましたが、
大切なお仕事がまっています。
世界中のパパとママに、かわいい子ネコを
とどけなければなりません。

チョコキは力いっぱいばたいて、天国へといそぎました。

天国では順番を待つ

たくさんの子ネコたちがあふれています。

「さあ、つぎはどの子の番かにゃ？」

子ネコたちの袋に近づいてゆくと、

一匹だけ袋からぬけだしてウロウロ歩きまわっている

子ネコを見つけました。



「どうしたのになゃ？ 順番に並ばないと遅くなっちゃうにゃよ。」

それはトラジマのとてもかわいい子ネコです。

「あのね、ボクね。」

「もとのパパとママのところに行きたいの。」

子ネコは瞳をキラキラと輝かせて、
あどけなく言いました。



「うん、いいにゃよ。」

「でもあのお家へ行くには、その柄じゃダメにゃのにゃ〜。」

「次にあのお家へ行くのは黒ネコにゃね。」

「黒ネコでもイイにゃ？」

「うん。」

「そう、それじゃあまた後ろにならんでにゃ。」

天使の仕事はいそがしく、
寒い寒い北の国から常夏の南の島まで
沢山の子ネコたちを新しいパパやママのところへ
はこんでゆきました。

そしてあの黒ネコの番です。

「あ、あなたにゃね。」

「よくガマンして待ってたにゃね。」



「それじゃ出発にゃ〜。」

「はい！」

黒い子ネコをつれてチョコキは飛び立ちました。

行く先は日本です。

「しっかりつかまっててにゃ。」

「うん。」

「よい天使になりましたね。」

飛び去るチョコキの背中を見送りながら、女神様は微笑みました。



天使になった猫チョコキはとても大切なお仕事をしています。

大切な大切な命をパパとママにとどけるのです。

「ねえ、天使さん。」

「にゃあに？」

「パパとママはボクのこと、気づいてくれるかな？」

「そうにゃね…、きっと大丈夫にゃよ。」

天使になった猫チョコキ～下書き版～制作中！

<http://p.booklog.jp/book/8404>

著者：くろけん&maoi

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/astakuroken/profile>

発行所：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/8404>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/8404>

単行本「天使になった全盲の奇跡の猫チョコキ」



このお話のモデル「チョコキ」の本です

出版社: TOKIMEKIパブリッシング(角川グループパブリッシング)

ISBN-10: 4048990055

ISBN-13: 978-4048990059

発売日：2010/12/18

価格：¥ 1,365

[この本のご購入はamazonへ](#)

[動いているチョコキを見るならYoutubeへ](#)

[チョコキの歴史を見るなら ブログ「にゃんこな日々」](#)

[イラストやアニメーションを見るなら HP「にゃんこに首ったけ」](#)

[チョコキの動画をまとめたDVDは「ASTA WEB SHOP」](#)

[チョコキのポストカードなら「ASTA WEB SHOP」](#)